

議会だより

第3回定例議会

(10月号の続き)

9月18・19日に開会しました平成20年第3回西粟倉村議会定例会で、紙面の都合で10月号に掲載しきれなかつた一般質問についてご報告します。

一般質問

向原教育長

通学につきまして、バス・バイク・智頭線を利用して江見・林野・勝間田・智頭農林へ通学している生徒は24名います。津山市内の高校へは、寮か下宿を利用していて、直通バスの利用者はありません。

いずれにしましても、保護者の負担は相当高額になつております。唯一安いのが智頭線の利用ではなつかと思つております。

ご質問の兵庫県立佐用高校でございますが、鳥取県は智頭農林高校の一部学科が一般選抜の県外指

定になりましたが、兵庫県についても行けない状況です。村に不安なく住み続け、高校進学できるようを選択肢を増やすことは大事と考えます。

佐用高校は、普通科、職業科もあり、大学進学希望者も多く通学

しています。そして智頭急行での通学もでき、時間的にも経済的にも良いと思います。佐用町長は、受入れに積極的な考えをお持ちです。協力を求め、関係機関に強く働きかけてはどうでしょうか。

また、厳しい経済状況の中、高校通学・進学が安心してできるよう、必要に応じて相談窓口や育英制度も考えていただき、希望の芽を摘まないよう格段の配慮をしていくべきだと思いますが、お考えをお尋ねいたしました。

英制度も考えていただき、希望の芽を摘まないよう格段の配慮をしていくべきだと思いますが、お考えをお尋ねいたしました。

國里議員

24名が通学をされてるということですけど、年間にどれくらい費用がかかつているのか、また下宿されるとどれくらお金が必要なのかお聞きします。また、本村に育英制度はありますか。その点お聞

か食費を含めて6、7万円になります。

國里議員

バスで1時間半片道かかるとなると、部活もできないし金銭的にも非常に厳しい状況だと思います。そのような状況の中、金が無くて子供が進学できないのは恥ずかしいと親は思うんですよ。日頃から制度があることを相談できるような心がけをしてもらいたいと思います。

バスの定期代が、江見商業・林野・勝間田・津山含め、学期定期で8万から9万円らしいです。江見へ行く子も津山まで直通バスで行く子も、上限額がほとんど同じということです。3年間バス通学で100万円近い費用がいるんじやないかと思います。

それから、今佐用町長が県民局長にそういうことを一生懸命言つておられました。村長にも繋がりがあるわけですから、そういう動きもしていただきたいと思います。是非村独自の貸付制度を考えて貰

ては、岡山、兵庫両県教育委員会の交渉が決裂して、いまだ未指定です。

今後も、村だけでなく美作市の教育委員会とよく協議して、再度岡山県に対して、兵庫県立佐用高校の指定要望を行つていただきたいと考えております。

奨学制度ですが、村独自では行つております。県高等学校貸付奨学金、岡山県育英会、財団法人岡山県私学振興財団、それから県社会福祉協議会が取り扱っているものについて、窓口になつています。村独自でも、幾らかの貸し付け援助ができないか、今後研究・検討をしていきたいと思います。

高校進学について

國里議員

本村においては、近くの県内高校の閉校により、進学に経済的・時間的に大きな負担が伴うものとなつてきています。近くの高校でも、鳥取県には行けますが兵庫県には行けないです。村に不安なく住み続け、高校進学できるよう選択肢を増やすことは大事と考えます。

佐用高校は、普通科、職業科もあり、大学進学希望者も多く通学

されています。その点お聞きします。

向原教育長

英制度はありますか。その点お聞きします。

國里議員

バスで1時間半片道かかるとなると、部活もできないし金銭的にも非常に厳しい状況だと思います。

そのような状況の中、金が無くて子供が進学できないのは恥ずかしいと親は思うんですよ。日頃から制度があることを相談できるような心がけをしてもらいたいと思います。

それから、今佐用町長が県民局長にそういうことを一生懸命言つておられました。村長にも繋がりがあるわけですから、そういう動きもしていただきたいと思います。是非村独自の貸付制度を考えて貰

いたいと思います。

道上村長



大原からバスで通学する高校生

高校再編成の時に、本村の進学の選択肢が狭まらないこと、自宅通学が可能な高校が増えること、家庭の金銭的な負担が増えると、地域づくりを模索する上でも子育て環境は非常に悪化すること等を考えますと、これからも慎重に前向きに対応していく課題だと考えております。これからも、各教育委員会と相談しながら要望活動は続けていきたいと思いますし、佐

校・智頭農林・佐用高校等安心して通学できる範囲の高校については、これからも継続して要望活動を続けたいと考えております。
育英制度について、教育長の方から色々な制度があると私も聞いておりました。保護者の方が理解できるように広報し続けるといけないと思います。

村の財政的な支援については、やや慎重に様子をみながら検討をしていくと答弁させていただきました。県全体の育英制度が今説明されましたように、全員の子供が最低の教育は受けれる思いを行政がもち続けないと考えます。

用町長さんとも、佐用高校の存続は地域の存続でもあるという考えを共有しておりますので、八頭高

校・智頭農林・佐用高校等安心して通学できる範囲の高校については、これからも継続して要望活動を続けたいと考えております。

幼稚園・小学校・中学校では、資源のリサイクルなど環境教育の一環として、使用済みのアルミ缶を回収しています。収益金は、PTA活動に使わせていただきます。皆様のご協力をよろしくお願ひします。

使用済みアルミ缶の回収について



幼稚園（駐車場の一角）



中学校（体育館外トイレの左側）



小学校（校舎裏）

※お詫び
10月号の「幼稚園だより」で掲載したアルミ缶置き場の写真が編集で間違つておりました。写真の位置が、正しい場所です。